

2021 年 3 月期第 2 四半期決算説明会 質疑応答要旨

株式会社 平和

【遊技機事業】

Q1. 旧規則機の撤去が 1 年先送りになったとのこと、旧規則機の撤去が今期 100 万台であるとのことだが、今期より来期の方が旧規則機の撤去が多く、需要は高まるという理解でよいのか。また、来期に需要が高まる場合に、来期に主力タイトルを投入する予定なのか。

A1. 来期は旧規則機 140 万台（上期 87 万台、下期 53 万台）が撤去されと考えている。当社は、旧規則機の撤去にあわせて新機種を発売することが基本的な姿勢であり、機を逃さずに機械を提供していく。

Q2. 新型コロナウイルスの影響と対策について。現状の開発効率はどうなっているのか。今後、感染が拡大した場合の対応等を教えてほしい。

A2. 緊急事態宣言時では、政府の要請により出勤率を抑えていたため、その時点では開発効率は落ちていた。現在は、通常勤務に戻っているため、開発効率はコロナ前の水準に戻っている。

緊急事態宣言解除後の一定期間、開発部門を対象に時差出勤とし、土日を含めたシフト制とすることで、通勤の密・事務所の密を抑える取り組みを行い、この期間で開発効率をコロナ前の水準まで戻すことができた。今後、新型コロナウイルス感染拡大により厳しい環境になったとしても時差出勤やシフト制にすることで、問題なく開発できる体制となっている。

Q3. 平和は 4th リールを搭載したパチスロ機を販売しているが、ユーザーとしては打ちにくさを感じている。4th リールのパチスロ機を開発する意図を教えてください。また、今後も 4th リールのパチスロ機を発売していくのかもあわせて教えてください。

A3. ユーザーの多様化に対応するため、試験的な意味合いも含めて販売した。タイトルラインナップとして、4th リールのパチスロ機は用意しているが、今後も継続して開発するかについては、現時点では回答できない。

【ゴルフ事業】

Q4. 4 ゴルフ場の取得を公表したが、これによる今期と来期の業績への影響を教えてください。また、のれんの計上の有無についても教えてください。

A4. 10 月 30 日付「当社子会社による株式取得（孫会社化）に関するお知らせ」（以下「適時開示資料」）にて、取得を公表した 4 ゴルフ場は 12 月 1 日付で取得する予定であるため、12 月の業績から取り込んでいくこととなると思う。ゴルフ場は第 4 四半期（1 月～3 月）が閑散期であるため、利益はほぼ見込めない。

来期の業績への影響については、適時開示資料に記載のとおり、4 ゴルフ場合算で売上高が 30 億円程度あり、来期も同額以上の売上高は見込めると考えている。営業利益については、ゴルフ場の営業利益率 16%～17%として認識してもらえれば良いと思う。

のれんについては、時価純資産の算定に時間を要するため現時点においては回答できない。

Q5. 4 ゴルフ場の取得を公表したが、新型コロナウイルスの影響で良い案件が出てきているのか。

A5. ゴルフ場の案件については、新型コロナウイルスの影響にかかわらず、ここ数年、多くなっていると感じているが、今後は新型コロナウイルスの影響により加速することも考えられる。当社グループが取得しやすい状況になってきていると思う。

【その他】

Q6. カジノ向けスロットマシンを開発する可能性はあるか。

A6. 当社はパチスロ機開発のノウハウを持っているため、スロットマシン開発についても参画できると考えている。しかしながら、ライセンスの取得が必要であることや、ゲーミング市場の規模等を勘案すると、当社において事業として成立するかなど十分に検討していく必要がある。

Q7. 遊技機事業、ゴルフ事業に次ぐ第3の柱となり得る事業への参入について検討しているか。

A7. 当社は「総合レジャー企業」を目指しており、第3の柱となり得る事業についても検討しなければならないと認識している。しかしながら、現在、遊技機事業は非常に厳しい状況に置かれており、まずは足元を固めることが必要であると認識している。

以上